

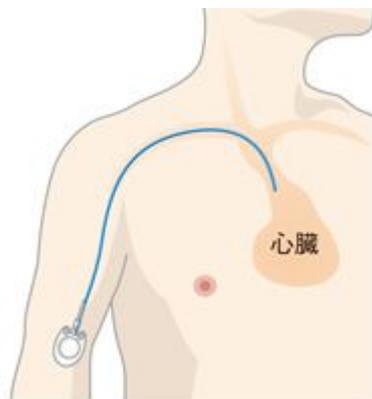
【研究名】： オキサリプラチンに伴う血管痛に対するオキサリプラチン希釈液へのデキサメタゾン混注と加温ならびに温罨法の予防効果

【研究目的・研究意義】

CV ポート*を留置せず、腕などの血管(末梢静脈)を用いたオキサリプラチン(注射薬:商品名はエルプラット)の投与と経口フッ化ピリミジン系抗がん剤(内服薬:商品名はティーエスワン、ゼローダ)を併用した抗がん剤治療は患者さんの満足度を向上させますが、末梢静脈からのオキサリプラチンの投与は血管の痛みを伴うことが頻繁にあります。血管の痛みは患者さんの苦痛となることがあります。そこで、当院ではオキサリプラチンの点滴にデキサメタゾン(注射薬:商品名はデキサート)を混ぜる方法や、点滴を温めて投与する方法、投与する血管を温める温罨法という3つの方法を組み合わせた投与方法を行うことで、血管の痛みを減らす工夫をしています。これらの方法はそれぞれ単独で効果が検証されていますが、これらの方法を組み合わせた効果はわかっていません。

そこで、当院の取り組みによる血管痛の予防効果を評価することにしました。それによって、将来オキサリプラチンで治療を受ける患者さんの血管痛を減らすために役立つ情報が得られることが期待されます。

*CV ポートとは、心臓に近い太い血管(静脈)から薬(抗がん剤や高カロリー輸液)の点滴を行うために用いる機器の一種で、皮膚の下に埋め込んで使用します。埋め込むことで薬剤を点滴する際に薬剤が漏れにくい、血管の炎症が起りにくいという利点があります。一方CVポートを埋め込むことで感染が起りやすくなったり、カテーテルの内部が閉塞するという欠点があります。



出典:<http://www.medicon.co.jp/top/>

図. CV ポート留置

【調査の対象となる患者さん】

2009年12月～2014年2月の間に、愛媛大学医学部附属病院でオキサリプラチン(商品名:エルプラット)の点滴を受けた患者さん

【方法】

調査の対象となる患者さんのカルテから、以下の項目を調べます。

性別、年齢、オキサリプラチンの投与量、栄養状態(血液検査のアルブミン値)、糖尿病の有無、脂質異常症の有無、オキサリプラチンを点滴する際に併用された他の抗がん剤、オキサリプラチンが投与された回数、血管の

痛みを予防するための投与方法

【患者さんの個人情報の管理について】

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて患者さんのプライバシーを守るよう努めています。結果の発表や出版に際しては個人が特定できるような情報は掲載しませんので、患者さんの個人情報が外部に漏れることはありません。

【研究実施体制】

研究機関： 愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

研究責任者： 教授 荒木 博陽

研究分担者：

准教授 田中 亮裕

薬剤主任 河添 仁

薬剤師 済川 聡美

薬剤師 中井 昌紀

【研究に関する問い合わせ先】

本研究からご自身の情報を除いてほしいという方は、下記の連絡先までお申し出ください。

また、本研究に関する詳細な資料を希望される方や詳細な情報を知りたい方は下記の連絡先まで連絡をお願いします。

研究責任者： 准教授 田中 亮裕

電話番号： 089-960-5731

e-mail: akiki@m.ehime-u.ac.jp

【研究成果】

オキサリプラチンに伴う血管痛に対するオキサリプラチン希釈液へのデキサメタゾン混注と加温ならびに温罨法の予防効果は優れている可能性が示唆されました。(ESMO 2016 Congressにて発表)